



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.44

学年末試験 公民の試験範囲について

(1) ノート提出について

公民の試験当日(3月5日)に、ノート提出してください。左側ページにノートプリントを授業順に並べて貼り付けているか、学習課題を確実に仕上げているか、右側ページの「自分でまとめた内容」や「自分の意見」などを整理しているかを確認・評価します。ノートの評価結果は、評定に「平常点」として組み入れます。

(2) 「なんでやねん」(用語解説編)と『ビジュアル公民』の試験範囲について

「なんでやねん」(用語解説編)では、No.19「貨幣の役割と金融」、No.20「私たちの生活と金融機関」、No.21「景気と金融政策」、No.22「私たちの生活と財政」、No.23「政府の役割と財政の課題」、No.24「社会保障の仕組み」、No.25「少子高齢化と財政」です。基本用語(角ゴシックで強調した用語)を覚えるだけでなく、本文全体の意味(文脈)を理解することが大切です。

『ビジュアル公民』では、p.114～p.129を試験範囲とします。特に、授業で利用した図版やグラフなどを中心に復習しておいて下さい。

(3) 「なんでやねん」の試験範囲について

「なんでやねん」では、No.38「課税所得331万円の人と、課税所得330万円の人より手取りが少なくなるのだろうか? ・所得税を増税する場合、どんな方法が公正なんだろう」、No.39「所得格差の現実をふまえて公正な増税を考えよう」、No.40「国債残高をどうすればよいか グループで考えよう」、No.41「日本の財政 歳入(税収)よりも、歳出の多い状況が続いている」、No.42「社会保障を持続する方法はあるのか グループで考えよう」、No.43「もしも国民皆保険がなかったら」が試験範囲です。効率や公正の視点から社会的問題を読み取り、自分なりの「解」を探ることが大切です。

なお、ノートプリントの一番上に「学習目標」を示しています。必ず読んでおいて下さい。「学習目標」にたどり着けているかどうかを試験で評価します。

***** 次ページに、今回の学年末試験のポイントになる事項の説明をしておきます。

ただし、それ以外の事項も試験の内容に含まれています。

(4) 主に「知識・理解」を試す問題のポイント

- ① 金融について、銀行の果たす役割、金利の意味、預金や預金通貨の意味が説明できるかどうかを試します。
- ② 好景気と不景気を繰り返す景気変動の意味を説明できるかどうかを試します。
- ③ インフレーションとデフレーションの意味を説明できるかどうかを試します。
- ④ 生存権・健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を再現したり、説明できるかどうかを試します。
- ⑤ 社会保障制度の趣旨と、社会保険、社会扶助、社会福祉、公衆衛生の意味を一覧表に整理できるかどうかを試します。年金保険を含みます。

(5) 社会事象の説明文を書くように求める問題

- ① 日本銀行の公開市場操作(オペレーション)で景気が回復すると考えられている理由を、「銀行、企業、資金」の3つの語句を使って簡単に説明すること。
- ② 日本の社会保障の課題を「現役世代」という語句を使って簡単に説明すること。
- ③ 「低福祉低負担」という考え方について、「社会保障」と「税負担」の2つの語句を使って簡単に説明すること。

(6) 資料活用技能を試す問題のポイント

- ① 日本銀行の行う公開市場操作の流れを、銀行の資金量と国債の売買との関係で説明できるかどうかを試します。
- ② 国の一般会計予算の歳入と歳出の内訳を説明できるかどうかを試します。
- ③ 国債残高のグラフを読み取り、日本の財政上の課題を説明できるかどうかを試します。
- ④ 所得税の累進課税の税率を理解しているかどうかを、実際に計算することで試します。
- ⑤ 日本の人口構成の変化と、社会保障給付の推移を表すグラフから、少子高齢社会の課題を説明できるかどうかを試します。

(7) 「思考力・判断力」を試す問題のポイント

- ① 社会保障費の増大と公債残高解消の課題を、世代間の不公平をどのようにとらえ、解決方法を論理的に探ることができるかどうかを試します。
- ② 財政赤字を克服する方法として、国民の税負担をどのようにとらえるのか、筋道を立てて考えることができるかどうかを試します。

＊ 今回は、「課題作文」を出題しません。